

人口動態について

(1) 人口ビジョン概要

人口ビジョン概要

人口推計及び人口動向を考慮し、今後本町が目指すべき将来の人口目標を、国や県の推計を勘案し以下のとおりとします。

人口目標 ▶ 令和42（2060）年 **4,800人**

目標達成に向けた取り組み

① 社人研推計値 ▶ 人口 令和42（2060）年：3,128人

② 合計特殊出生率の上昇 目標値：令和 2（2020）年：1.95 R2国勢調査…1.67
 令和 7（2025）年：2.03
 令和12（2030）年：2.10 ※以降一定
 人口：令和42（2060）年：3,337人

③ 移動（純移動率）ゼロ（均衡）をめざして！
 目標値 令和12（2030）年までに45歳未満（15～24歳を除く）の社会増減の差をゼロする。
 ※以降同条件
 U I Jターン施策，居住する住民が健康で豊かに暮らせる施策 などの実施により
 人口：（2060）年：4,866人+（社会経済動向の変化等による転入超過の誤差を想定）→ **4,800人**

(2) 人口推移

2015年国勢調査 9,217人	第2期総合戦略						単位：人	
	令和2年 (2020年)	令和3年 (2021年)	令和4年 (2022年)	令和5年 (2023年)	令和6年 (2024年)	令和7年 (2025年)	令和12年 (2030年)	令和42年 (2060年)
	国勢調査					国勢調査		
社人研推計①	8,234	8,050	7,865	7,680	7,495	7,307	6,506	3,128
町人口ビジョン②	8,407	8,259	8,111	7,963	7,815	7,667	7,055	4,800
住民基本台帳③	8,740	8,564	8,334	8,070	-	-	-	-
国勢調査補正		▲500	▲500	▲500				
国勢調査水準推計④	8,250	8,064	7,834	7,570				
②-④	▲157	▲195	▲277	▲393				

※現行人口ビジョンは、2015年国勢調査をもとに推計を行っている。2020年国勢調査の確定値：8,250人

※国勢調査補正 2015調査9,217人、住民基本台帳9,820人 差603人

2020調査8,250人、住民基本台帳8,740人 差490人

※人口ビジョンのシミュレーション条件 …合計特殊出生率2.1、転入転出の差0人

※社人研 …国立社会保障・人口問題研究所

※基準日 10月1日

第2期における人口推計は、令和42年度に4,800人と設定している。

令和4(2022)年の国勢調査補正後の推計人口は7,834人に対し、町人口ビジョンは、8,111人であり、目標人口に対し▲277人で推移している。

引き続き、継続した対策を行っていく必要がある。

(3) 人口動態（住民基本台帳による）

	年度	転入	出生	転出	死亡	社会増減人口	増減人口
	H17	231	63	251	197	△20	△154
	H18	245	51	377	201	△132	△282
	H19	198	55	308	222	△105	△272
	H20	208	53	342	201	△139	△287
	H21	229	59	271	218	△42	△201
	H22	208	52	259	216	△51	△215
	H23	237	45	287	211	△50	△216
	H24	278	53	372	210	△94	△251
	H25	261	45	331	221	△70	△246
	H26	239	41	346	224	△107	△290
第1期	H27	242	43	286	216	△44	△217
	H28	239	36	278	236	△39	△239
	H29	253	35	261	206	△8	△179
	H30	235	31	292	211	△57	△237
	H31	213	34	278	177	△65	△208
第2期	R2	224	30	261	184	△37	△191
	R3	191	25	272	175	△81	△231
	R4	218	31	280	222	△62	△253
H17~R4 平均値		230	43	297	208	△67	△230
H17~H26 平均値		233	52	314	212	△81	△241
第1期	平均値	236	36	279	209	△43	△216
第2期	平均値	211	29	271	194	△60	△225

令和4年度の増減人口は、▲253人（前年▲231人）、転入者と転出者の差である「社会増減」は▲62人（前年▲81人）と依然厳しい状況が続いている。

(4) 人口移動意識調査

住民窓口で行っている転入者、転出者双方のアンケート結果をまとめたところ、令和4年度に転入者が本町に住むにあたり魅力を感じることは、

第1位「雇用の場があること」

第2位「子育て支援が充実していること」

第3位「住宅が確保できること」

であった。

特に「子育て支援」は、例年上位に位置しており、転入者にとって大きな魅力に映っている。子育て、教育、住宅施策等に評価を得ていると考えられる。

一方、転出者が他の町に魅力を感じるころについては、

第1位「買い物が便利なこと」

第2位「公共交通の利便性がよいこと」

第3位「雇用の場があること」

と続き、例年ほぼ同様の結果となっている。

買い物、交通、雇用何れも本町の大きな課題である。

【R4年度】		転入者が「本町に」住むにあたり魅力を感じるころ												(単位:件)	
調査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	順位	
1 子育て支援が充実していること	2	1	1	1	3			1	1			3	13	2	
2 教育が充実していること	1				1				1		1		4		
3 医療が充実していること					1							1	2		
4 高齢者福祉施設が充実していること					1	1					2	2	6		
5 買物が便利なこと												1	1		
6 雇用の場があること				2	1	1	2	2			1	9	18	1	
7 住宅が確保できること	1		1			1	1	4	1			4	13	2	
8 農地が確保できること	3	2		2	1	1						2	11	4	
9 地域のコミュニティ活動が盛んなこと				2	1	1				1			5		
10 公共交通の利便性がよいこと													0		
11 情報基盤が充実していること													0		
12 町の支援施策があること	3							1		1	2		7		
13 転入出の相談に乗ってくれる窓口があること			3		1				1	1			6		
14 空き家バンク制度が充実していること					1	1						1	3		
15 その他(自然が豊か、美味しい食材、人など)	1	1	2		3			1	1				9		
16 回答無し		1		1		1		1			2	3	9		
合計	11	5	7	8	14	7	3	10	5	3	8	26			

		転出者が「他の町に」魅力を感じるころ													
調査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	順位	
1 子育て支援が充実していること				1						1	1	2	5		
2 教育が充実していること		1		1					1		1	3	7		
3 医療が充実していること							1					4	5		
4 高齢者福祉施設が充実していること	1		1	1	1	1	3	1	3		3	1	15	4	
5 買物が便利なこと	5	2	2	2	2	3	2	2		3	5	16	44	1	
6 雇用の場があること	2	1			1	1	2	5		1	2	8	23	2	
7 住宅が確保できること(子との同居含む)	1			1				1	1	1			5		
8 農地が確保できること													0		
9 地域のコミュニティ活動が盛んなこと											1	1	2		
10 公共交通の利便性がよいこと	4			1	1	1		2		1	2	6	18	3	
11 情報基盤が充実していること	1		1										2		
12 町の支援施策があること						2	1			1			4		
13 転入出の相談に乗ってくれる窓口があること	1		1										2		
14 空き家バンク制度が充実していること			1										1		
15 その他(婚姻・介護等)			1		1				2	1		5	10		
16 回答無し	3	1								2			6		
合計	18	5	6	7	6	8	9	11	7	11	15	46			